



たまごとおつきさま

akebono-print

むかし、のはらの一けんやに、にはとりが一羽すんでゐました。そののはらのむかふには、ひくい、きれいな山が三つならんで立つてゐました。



ある、月のいゝばんのこと、そのにはとりが、玉子を一つうみました。そのたまごに、丁度のぼつてきた月が、光りをさしかけましたので、たまごは、それは美しくくて、しんじゆのたまのやうに見えました。

にはとりはうれしくてたまらないので、玉子ばかり見てゐました。けれども、そのうちに、玉子は、だん／＼消えていつて、かげばかりになり、おしまひには、そのかげさへも見えなくなつてしまひました。

ぼんやり、それを見てゐたにはとりは、たいへんびつくりして、おつきさまのところへかけて行つて、「おつきさま、どうぞ、わたしのたまごを、かへしてください。」とたのみました。



すると、こんどは、きふに、おつきさまがわらひながら、だん／＼しぼんで、たまごになつてしまひました。

にはとりは、たいへんよろこんで、

「ほんとですか、おつきさま、これがわたしのたまごですか。」といつて、それを羽の下に入れようとしますと、それが、見る間に大きくふくれて、三つならんだやまのむかふから、おつきさまになつてのぼつてきました。

あくるあさ、にはとりが目をさまして、のはらにいつてみますと、まへのばんのおつきさまが、しろくすきとほつて、空にのぼつてゐました。そこで、にはとりはおほきいこゑでなきました。

「それは、たまごか？ おつきさまか？ コケツ、コケツ。」



1978（昭和53）年11月30日初刷発行

底本の親本：「日本童話選集 第一輯」丸善

1926（大正15）年12月

初出：「子供之友」婦人之友社

1924（大正13）年3月

※初出時の署名は「岡内籌子」です。

入力：菅野朋子

校正：noriko saito

2011年1月27日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。  
。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

---